

## トリニティー散布実験 報告書

ビーワンシステムとちぎ販社  
代表 新田 正幸

試験区は、福島第一原発より直線距離 130km 離れた場所に位置し、栃木県で最も高線量を計測した地域です。

これは、3月15日の原発により千葉方向に流れた放射性物質が南風によって吹き流され、八方高原の山脈の裾野に落ちたためと考えられています。

実験地：栃木県那須塩原市金沢地区

- ① 草むらの地面（散布後ビニールシートで覆う）
- ② 草むらから表土を剥ぎ取り、地面よりマイナス 50mm（散布後透明ビニールシートで覆う）
- ③ 草むらの地面よりプラス 1m の空間
- ④ 対照区

測定器：ガイガーカウンター（DP802i）

試験としては、周囲が高線量のため、計測の時その影響を受けないよう、無風の日時に計測しましたが周囲の草の葉の影響は多少あると考えます。

結果としては、添付写真及び資料の通りです。

その他、数ヶ所の試験区を計測しておりますが、線量低下のデータが取れ次第報告いたします。

# ① 草むらの地面



6月10日

**現状線量3.89  $\mu$ sv、累計線量2.72  $\mu$ sv/h**  
1㎡にトリニティー40倍希釈液を0.8L散布。



6月10日

雨、風で周囲の空間線量の影響を受けないように  
テント張りして養生。

1ヶ月後

数値は対照区とほとんど変わりませんでした。

**現状線量3.11  $\mu$ sv、累計線量2.25  $\mu$ sv/h**  
(写真なし)



2ヶ月後

**現状線量1.62  $\mu$ sv、累計線量1.54  $\mu$ sv/h**

※写真は30分での累計線量

※累計線量 = 30分の累計線量  $\times$  2  $\times$  1.046 (補正值)

※現状線量は天候や風向きなどにより随時変わりますので累計線量の方が重要になります。

## ② 草むらの地面よりマイナス50mmの地点



6月10日

草むらの地面からマイナス50mm表土を剥ぎ取り、地表を計測。

**現状線量1.17  $\mu$ sv、累計線量0.82  $\mu$ sv/h**



6月10日

1㎡にトリニティー40倍希釈液を0.8L散布後、透明なビニールシートで覆い実験しました。

1ヶ月後

数値は1ヶ月前と、ほぼ変わりませんでした。(写真なし)



2ヶ月後

**現状線量0.52  $\mu$ sv、累計線量0.45  $\mu$ sv/h**  
結果として線量低下が見られました。

※写真は30分での累計線量

※累計線量 = 30分の累計線量  $\times$  2  $\times$  1.046 (補正值)

※現状線量は天候や風向きなどにより随時変わりますので累計線量の方が重要になります。

### ③ 草むらの地面よりプラス1mの空間



6月10日

草むらの地面よりプラス1mの空間を測定。  
1㎡にトリニティー40倍希釈液を0.8L散布後、  
ビニールシートで覆い実験しました。



6月10日

**現状線量2.05  $\mu$ sv、累計線量1.45  $\mu$ sv/h**

1ヶ月後

数値は1ヶ月前と、ほぼ変わりませんでした。  
(写真なし)



2ヶ月後

**現状線量1.18  $\mu$ sv、累計線量1.31  $\mu$ sv/h**  
この現象は、テントの上に放射性物質を含んだ水が  
たまり、その線量を拾って数値が高くなっていると  
考えられるも再計測を要します。

※写真は30分での累計線量  
※累計線量 = 30分の累計線量  $\times$  2  $\times$  1.046 (補正值)  
※現状線量は天候や風向きなどにより随時変わ  
りますので累計線量の方が重要になります。

## ④ 対 照 区 (地面)



6月10日

現状線量 $3.89 \mu\text{sv}$ 、累計線量 $2.72 \mu\text{sv/h}$

1ヶ月後

現状線量 $3.11 \mu\text{sv}$ 、累計線量 $2.25 \mu\text{sv/h}$   
(写真なし)



2ヶ月後

現状線量 $1.75 \mu\text{sv}$ 、累計線量 $1.90 \mu\text{sv/h}$   
これは地面が腐葉土のため、セシウムが表土に潜り込んだためであると考えます。

※写真は30分での累計線量

※累計線量 = 30分の累計線量  $\times 2 \times 1.046$  (補正值)

※現状線量は天候や風向きなどにより随時変わりますので累計線量の方が重要になります。